

磐城時報

日刊 廿夕
石城郡石城町新田十番地
電話 二二二
代印 所 磐城郡石城町新田十番地
電話 二二二
部 金 一 月 金 五 十 圓
部 金 一 行 十 四 字 金 五 十 圓
日 刊 (一 日 金 五 圓) 休 刊

石城の縣議戦況

公平な目で見て

最高點は鈴木氏が

壓倒的勢力に民衆驚く

政戦が愈々耐なるに従ひ各候補名等全く絶對勢力範圍で平町も者の優劣に關する下馬評が盛ん或は井上茂作氏に劣らぬ投票をに耳にされるが、各方面の情勢得るであらうと言はれ、好問、から察して最高點の當選者は何平窪の二箇村に於ける勢力は之と言つても政友會公認の鈴木氏に次ぎ、山の手方部に於ても又三郎氏であらうといふ事に一致行として可ならざるなき優勢を呈してゐる。同氏の地盤は居村夏より、他候補者もその壓倒的勢力を認めし高久、豊間、江方に今更驚いてゐる状態である

依然苦境にある

山崎候補の立場

切角の地盤が蠶食さる

鈴木長三郎氏が日に日に優勢を炭礦方面の勢力は最近に至つてを加つつゝあるのに引きかへ、某々候補者等のため甚だしく蠶人物、議見、抱負等が新有権者食された傾きあり、平町に於てに未だ徹底を欠いてゐる嫌ひは井上茂作氏は居住地である關るため苦しい立場に在るの政係で氏の得票多數は當然である友派公認の山崎吉平氏で、相當にしても、鈴木長三郎氏等の勢力年輩者は何れも山崎候補の人格方最近順に著るとし、各種の事を信じ手腕を認め遠大な抱負に情から見て山崎候補が平町から共鳴してゐるため熱心なる應援集め得る投票は極めて僅少にな返したが未だ尚は樂觀し得る状態に至らず、平町から同氏を落は策を有せず又宣傳を好まぬた事であるが山崎氏の絶對地盤すやうな事があつては郷土の恥め前述の如く新有権者に對し目とする飯野村は全部氏に入つた辱であり地方の損失であるとし下の處その人物の全部を知らしとして僅か六百票、假りに三平町五丁目釜屋主人諸橋守次める事が出来ないためと千票内外が當選圏内だとすれば氏は左の如き依頼状を石城郡内又今日まじかつて築きあげた殘る二千五六百票を各町村の散

井上氏

優勢となる

連名で依頼状

平町の井上茂作氏は鈴木長三郎氏始め各候補者のためたゞ一箇所しかない平町を著るしく蠶食され最初苦境に在るもの、如く察せられ、あなが、最近全く勢力を盛りかへし俄然優勢を傳へらるゝに至つた事は、同氏の清廉潔白な人格、政治的手腕等を聯想し縣政のため喜びに堪へぬ井上氏を圍む人々は最近挽回した勢力に一先づ安心の胸を撫

井上氏を落しては

平町としての恥辱

諸橋守次氏依頼状を出す

諸橋守次氏依頼状を出す
謹啓時下秋冷之候益々御清福之段奉慶候陳者今回之縣議選舉に際し、小生の知己先輩たる井上茂作氏立候補相成候處に御承知の通り同氏は多年縣政に參與し且つ社會公共の爲め幾多熱心不斷の努力を以て常に第一線に立つ義侠的手腕、其の識見の卓越せし然かも清麗潔白にして正義に燃ゆる眞の雄辯に至つては議政壇上唯一の士として何人も敬服事

古川候補も

苦戦に陥る

驚候補の躍動

石城郡南の候補者古川傳一氏は期中も献身的に地方のため盡力地盤關係から見ても最初優勢なした人であるから、二三日もの、如く一般から思はれてゐる努力次第では形勢を挽回するたが最近に至り民政派の候補者事左程難事ではないと察せられ驚候昇氏が各町村に亘つて殆んでゐる。

秋晴れの平上空に

四十五羽の軍用鳩

平、東京間で鳩の調査

東京中野電信隊では軍用鳩の記もので十二月中旬まで試験を經たが、東京間と決定、中野一回として二十日平町共濟病院が住宅地の立退き取拂ひには種電隊軍用鳩調査委員陸軍技師前から二羽を放ち二十一日午前種面倒な苦情も起り且つ縣費の補助もすでに本年度分は申請し未だ査定すらもないので町では既定計劃が遅れ當初の見込みでは昭和三年度までに完成する筈であつたところ少な、も五ヶ年位は工事竣功遅延を免れぬ事に更なる本部の立町裏の完成後は市街地とする計劃が地主間に叫ばれてゐるので近く具体化する

立町裏も

市街にする

平町の計劃

平町では去る大正十年來字南町裏に新市街地建設計劃を立て工費二十九萬九千圓の豫算を計上すでに大部分の埋め立てを終

入場券交附で

役場の注意

入場券交附で
役場の注意
入場券交附で
役場の注意

九	江	小	大	羽	肩
帯	戸	紋	島	二	裏
	樓	錦	紬	重	類
		紗	紬	友	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	
				重	
				友	
				仙	
				二	

小野晋平氏が 遠洋漁業船を建造

奨励金の交附願提出

小名濱町縣會議員小野晋平氏は後述に於ては三ヶ年間各年の業務同地方の福利を圖るために對する漁業奨励金の下附を十今回遠洋漁業奨励法によつて遠九日縣の手を経て山本農林大臣洋漁船新造を個人で計劃して造に提出した、之に對し縣當局は船中である、その船は總噸數六回船が新造された上は正に縣有十六噸の鐵船で夏は鯉、春は鮪の警城丸より大きな漁船でありの遠洋漁業をなさんとするもの遠洋漁業奨励上利益する處甚大で、起業費としては八萬二千七百七地方のため誠に喜ぶべき事二百余圓を計上した、同漁船竣工ある。

推薦廣告

有權者の希望すべき
縣會議員候補者として

山崎吉平君を推薦す

極力其の當選を期す

推薦者 平町久保町
永山和平

白骨の死体が 山中に横はる

山苧り男驚いて届け出づ

内郷村大字御厩久保米吉が二十好問村中好問字銀治内農業丑音日午前八時頃附近山林を伐採せ弟木田萬次郎(一九)と言ひ幼いんとして山内に入った處全身腐爛死別し實兄に厄介にな亂した白骨の死体が横はるつてゐたが去る七月二十九日丑ののを發見したので平署から橋音と口論しそのまゝ同日歸宅し矢田部長出張檢死した處同人はなかつたので親戚知己の者と附

近を搜索したが發見されず平署に搜索方を願出で、わたもの判明、察するに人生を悲觀して縊死を遂げたものらしく吊した繩は腐朽して死体は地上に横はつてゐたものである。

高久病院

内科・外科・耳鼻
咽喉科・花柳病科
院長 高久 忠
平町電話一三五

移出米改善

石城郡大野村では生産米の内一萬俵を輸出する能力を有してゐるが品質及精製粗悪の結果各市場にて悉く嫌忌されてゐる状態にあるので生産者の蒙る損失頗る莫大なるものがあるに鑑み産米改善策に就ては各種の方法を講じ其改良に努めてゐるが之に腐心の結果同村にては縣下初め

治淋
新藥
代理 山野邊藥局
平町五丁目角

の試みとして過般四十名の産米改良指導員を設け其極力其改良方法を攻究中なれば之れが實施後に於ける同村産米が従來の如き劣悪から脱する事は今から期待され各市場商人の注視してゐる處であるが、由來同村を中心として四倉、大野等の生産米は乾燥が充分なると調製不良等の重大缺點あり搗き滅り甚だしきもので之れが理想的に改善の行はれる時は一萬圓の買上利益を見る事になる。

議政壇上唯一の士として 井上茂作氏 を推薦す

縣會議員候補者井上茂作氏は多年縣政に參與し且つ社會公共のため不斷の努力を以て第一線に立つ義侠的手腕と卓越した識見を有す、而も清廉潔白正義に燃ゆる眞の雄辯に至つては議政壇上唯一の士として敬服する處、多數候補者中最適任と確信す、今や劃時代的の普選に直面し氏を落すが如き事あつては郷土の面目を失墜する重大事として憂慮に堪へざる處、此際各位の格別の御配慮と御同情により是非當選の榮を擔はしめられるやう、伏して懇願致します。



井上茂作氏

推薦者 平町五丁目
諸橋守次

かまぼこ製造始開

玄月の秋にだ機嫌克く毎度の御引立に御禮申上ます。愈々かまぼこの時季に入りまして本年は鮮魚類多く特に新鮮なる原料と風味に注意致しましてお機嫌を伺ひます。大漁は獨りかまぼこの材料でなく鯉の大漁は申上り迄もなく茲に當店の生命たる鯉節も近年に無き大豊にて品質の優良、價格の低廉にこゝ又近年に無く何卒兩者の御需要を御進の申上ます。

かまぼこ製造
鯉節問屋 藤市蒲鉾店
電話三〇五番

お世話なきお惣菜
味の良き薩摩あげ六枚金十錢

故尾上松之助追悼大興行

噫……劇壇の巨人松之助は逝いて早や一週年、氏の映畫劇壇に奮闘せる眞の藝術を追想し茲に全國は活映畫上映館一齊に氏の映畫を上映す。當館は氏の遺せる千古不朽の寶玉篇を御熱望に依り、再度上映す。

荒木又右衛門 全十七卷
松之助一生一代の大作 出場人員三千余名

松竹現代劇部大作
母性愛 子を思ふ母 全七卷
藤田陽子主演、八雲恵美子、小櫻葉子助演
當る廿二日公開 學生テ一平館

靴とかばん

御注文は特に勉強
既成品も豊富にあります

平町搔植小路(役場前)
福山靴店

印刷物の御用は……加納活版所